



見附市立見附小学校 学校だより

「自ら学び 進んで鍛え 共に伸びる見小の子」

みしよ

No. 371

令和8年2月27日(金)発行

〒954-0052

見附市学校町1丁目3番89号

Tel 0258 (62) 0141



だれでもつらい日
はあるよ
でも生きよう！
今生きていることが
100点です



愛育の心で「実生の輝き」を育てる

校長 後藤 正美

見附小学校には、忘れてはならない日があります。平成17年2月3日、冬のプールに近付いた子が、転落凍死するという悲しい事故が発生したことです。それ以降、「命と安全の日」を設けて、命を大切にする教育を継続してきました。令和5年度の150周年事業では、地域の遊歩道でもあるプール脇の壁を、子供の絵で華やかにしようというアイデアが出されました。悲しい事故を忘れてはいけませんが、未来に向けた新たな一歩を進めたい愛育会の願いのように私は感じ、嬉しかったことを覚えています。

私自身も、令和4年度には全校の子供たちに、翌年からは1年生を対象に命の授業を継続してきました。以下は、授業からの抜粋です。

自由は楽しいですね。自由は、憲法という国のきまりでも認められた一人一人が持っている大切なものです。でも私は、自由は人間にとって2番目に大切なものだと思います。では人間にとって、自由よりも大切なこと1番大切なこととは何だと思えますか。それは、「今、ここに生きていること」だと思うのです。皆さんが、今ここに生きていることが、何より素敵なことです。学校や家で、楽しい日もあれば嫌な日もありますよね。それは、皆さんも大人も同じです。でも、こうやってみんなが今日も生きている。これが何より素晴らしいことだと私は思っています。

(中略) 学校で子供が命を落とすという、これ以上ない悲しい事故を、私たちは忘れてはいけません。人に対して、「死ね」とか「殺す」とか、本当はそう思っていないのに、ゲームのような軽い気持ちで言う人がいます。自分で「もう死にたい」と言葉にする人もいます。私はその言葉が嫌いです。命をなくすことがどれだけつらいことなのか、悲しくて切ない死を見てきたからです。生き返ってほしいのに、どれだけ涙を流しても、二度と生き返ることはないのです。人の人生を終わらせるような「死ね」とか「殺す」とかの言葉を、見小っ子には使ってほしくありません。

今日は、命の大切さを考える日です。自分の命と人の命、動物などの生き物の命、これからも命を大切にする見小っ子でいてください。

実際の授業では、自由について考えたり詩を紹介したりしました。子供たちは、様々な環境下で健気に生き、登校してきます。そんな子供たちが「今日も楽しかった」と、安心して生活できるような環境を、学校・家庭・地域で創ってまいりましょう。